平成30年度第1回白石市まち・ひと・しごと創生戦略会議

開催概要

1　日　　時　　平成30年8月29日（水）　午後2時～午後4時

2　場　　所　　白石市役所　4階　大会議室

委員

番号	区　分	団体等名称	役　　職	氏　名	出　欠
1	産業界	白石商工会議所	会　頭	齋藤　　昭	
2		白石蔵王地区 企業連絡会	NEC プラットフォームズ	日野　明彦	
3		白石市 産業振興会議	代　表	佐藤　　全	欠席
4	教育機関	宮城大学	地域連携ｾﾝﾀｰ長	富樫　千之	
5		宮城県 白石高等学校	校　長	脇坂　晴久	
6		白石市立 小中学校校長会	会　長	永山　晋	
7	行政機関	東北財務局	総務課長	三浦　敏朗	
8		宮城県大河原 地方振興事務所	地方振興部長	髙橋　悟	
9		大河原公共職業 安定所白石出張所	所　長	齋　和彦	
10	金融機関	七十七銀行 白石支店	支店長	菊地　勝己	
11		仙南信用金庫	地方創生支援業務 担当部長	菅野　勉	
12	労働団体	連合白石地区会議	事務局長	山内　洋介	
13	報道機関	アナウンサー		船越　理香	欠席
14		谷津新聞店 (河北新報販売所)		谷津　智里	
15	学識 経験者等	白石市議会	議　員	松野　久郎	
16		白石市観光協会	会　長	佐藤　善一	
17		白石青年会議所	理事長	風間　信静	
18		みやぎ仙南 農業協同組合	白石地区事業本部 地区事業本部長	佐藤　誠	
19		白石市認定 農業者連絡協議会	(有)竹鶏ﾌｧｰﾑ常務	志村　竜生	欠席
20		白石刈田地区	会　長	佐久間一志	

		父母教師会連合会			
21		子育て支援ｾﾝﾀｰ 利用者代表		佐藤　智美	
22		プランニング開代表･アトリエ自遊楽校主宰		新田新一郎	
	白石市出席者				
		白石市長		山田　裕一	
		白石市副市長		菊地　正昭	
		白石市総務部長		大槻　洋一	
		白石市総務部 地方創生対策室		日下　忠績	
		〃		佐久間恒一	
		〃		石川　勝	

配布資料（以上、事前配布）
【次第】
【委員名簿】
【資料１】白石市総合戦略効果検証資料
【資料２】市民アンケート調査集計結果
【資料３】広報しろいし平成３０年９月号に掲載する特集記事の写し
【資料４】農商工連携を核とした賑わい交流拠点について
【資料５】地方創生関係交付金事業採択・実施状況について
【参考資料】人口ビジョン及び総合戦略の体系
【参考資料】施策の概要と主な取り組み
【参考資料】昨年の戦略会議で定期・議論された事項の対応等について

３　議事概要　　○異動等により変更となった委員に対し、委嘱状の交付を行った。

○前回会長であった竹内会長が退任されたことにより、新たに会長の選出。会長には富樫委員を選出。

１)「白石市まち・ひと・しごと創生創業戦略」の概要について

<u>○総合戦略概要について</u>

資料に基づき、事務局より人口ビジョン、施策の概要と主な取組について説明を行い、戦略の概要について確認した。

・まち・ひと・しごと創生戦略の期間は５年間で行うということに

なっていますが、資料で示されているように人口減少をこのくらいで抑えようということで、合計特殊出生率の数値やそれぞれＫＰＩを設定してスタートして今年で４年を迎え、設定当初からのそれぞれの達成率について記載ありますが、どのような状況になっていてそれをどのように評価しているのかについて説明をしていただければと思います。

→全体的には取り組みは順調に進んでいると思います。しかし、すぐに効果が出る施策もあれば、出生率等のように長期間で考えなければならないものもありますので、４年間で全てが完結するわけではなく、２０４０年、２０６０年と長いスパンで、積み上げないといけない部分もあります。

・現在のまち・ひと・しごと創生戦略は３１年度までですが、その後も第２期としておそらくあるだろうと示唆されているという情報があったので、おそらく白石市としても計画を策定していくようになると思いますが、当初に設定した指標がこれで合っていたのかどうか、目指す姿に近づくことができるものなのかということについても検証していく必要があるのではないかと思うのでよろしくお願いします。

→白石の総合戦略は、総合計画の手段のための位置づけをしておりますが、総合計画は３２年度までとなっており総合戦略の方が１年早く終わる状況にあります。その１年間をどうするかという取扱いはあるんですけれども、３年前に設定した目標ははたして適切だったのかというような目標も正直あると思います。しかし、途中で変えるのはなかなか難しいので、そこのところを毎年の検証の中で、指標的にどうなのかというところを検証しながら次の総合戦略には活かした上で、適切な目標設定をしていかなければと思います。

○地方創生市民アンケート調査集計結果について

資料に基づき、事務局より７月１日～７月１５日に実施した調査アンケート結果について説明を行った。

・２９年度と３０年度にアンケートを実施して結果が出ていますが、比較すると内容にあまり変化がない。地方創生で色々な活動をしているので結果が良くなっていてほしいという希望はあるが３０年度の結果を見てもあまり良くなっているようには見えない。ただこれは無作為抽出して行っているアンケートですので、２９年度と３０年度で回答している人が違うので毎回同じような結果に

なる可能性がある。そうするとどこが良くてどこが悪いかというのがなかなか見えないのではないかと思う。見えないということはＫＰＩの数字は確かにいいが、それが実際に市民が本当にいいと思っている数値と乖離があるのではないかと思う。その辺を今後どのようにやっていったらいいかというのが大事だと思う。

・このアンケート項目については市でどういう項目にするか決めているのか。
→アンケートにつきましては、総合戦略を作る時から同様の内容で聞いており、無作為抽出ということで、同じ人が評価しているわけではない。ただ、総合戦略は計画・作成段階からようやく子育て支援施設のオープンや６次産業化加工施設の整備、サンパークの整備が進んでいく等事業実施に移る段階になりつつあります。それで例えば子育て支援項目の育てやすさという項目がございますが、あまり芳しくない数値かもしれません。ただ、来年度調査をすれば、育てやすさの数値については、一定の効果が上がるものと期待をしているところございます。確かに１年１年で見れば微々たるものではございますが、５年間で見れば、数字は変化してくると考えております。

・資料の見方として項目毎の変化をみるものと、若い世代の住み続けたいという割合と高齢の方の住み続けたいという割合の違いはなんなのか、その理由をもっと掘り下げて聞き出すというのも一つあると思います。

・同じアンケートの数字を見てもそれをどう評価するかで違うと思う。私たちがこういう評価をする時にＰＤＣＡという手法を使います。それでＰＤＣＡのＣというのは内部では行わない。外部機関の人が評価する。こういう目標数値をあげて、それに対してアンケートの結果がどうだったかというのは悪いことではないが、少なくとも身内でやってもしょうがないと思う。どうやって外部機関でやっていくかということなって、難しいところはあると思うがＣのところはもうちょっと工夫しないとＣにならないと思う。

・目標１から４まで立てて、今すぐ見えるもの、見えないものそれぞれあるが、今おっしゃったようにＰＤＣＡが回っているので、それを回すための資料としてアンケート調査があると思うのでまた立ち戻ってもいいと思う。それを５年間の間でできるのか、５年後計画を立てたけどダメだったではなくて、見直しを行いながらちゃんと５年後に向けてやっていかなければならないのではな

いか。毎年アンケートをやっているということは徐々に良くなっているというのを把握するだけではなく、それを用いてもっと力を入れていかなければというのに活用したらいいのではないか。それと、白石での働きやすさというのも去年とさほど変わっていない。しかし働くというのは仙台でもどこでもいいと思う。でも住むのは白石というふうにある程度方向を持っていくというのもいいのではないかと思う。

・有効求人倍率が１．０６というのがどうというわけではなく、問題は白石で職を求めるのか仙台で職を求めるのか。働く場所は仙台でもいいが居住するところは白石市にというほうが明確な目標になると思う。

・アンケートに関連してなのですが、毎年この会議で前年と今年を比較したものが配られていますが、せっかくずっと取っているので前年だけ比較だけではなく、集計している期間を通しての変化が分かるようにしないと活かしきれてないのではないかと思います。
→集計結果の分析については検討していきたいと思います。

・アンケートについては、設問の数を増やすというのは難しいでしょうし、基本的な項目は変えないでアンケートをすることで比較ができるのだと思いますが、例えば去年若しくは３年前と比べて住みやすさ・暮らしやすさはどうなりましたか、その理由はなんですかというのを書いてもらえれば分析の仕方も変わってくるのではないか。

・アンケートというのはあまり煩雑にすると答えたくないという人も出てくると思うので、そういう加減は難しいと思いますがぜひ検討いただければと思います。

２）平成２９年度白石市地方創生事業の効果検証について

<u>○基本目標１　産業の活力を生む新しい価値を創造し続けるまちづくりについて</u>

資料に基づき、事務局より各基本的方向に位置づけられている先行事業、新規事業、継続事業の各項目について説明及び昨年の戦略会議

で提起・議論された事項の対応等について説明を行った。

・有効求人倍率等は比較的良好だという報告は昨年度もあったんですが、企業としては求人倍率にも表れているとおり、採用したいという企業が比較的ある、市民の方からみれば働く場所がない。というところでミスマッチの状態があるという指摘を頂いております。白石市としましては、企業の魅力とか、活き活きと働いている職場があるんだと広く紹介したいということで広報しろいしの「しろいしのはたらき人」というコーナーを作りましてその中で企業の紹介とかイメージアップにつながるような記事を載せまして、努めているところでございます。

・最近は仙台に流出するよりも東京圏への流出が多くなっている。求人の数は減っていないが人がいないということで本来であれば有効求人倍率は高くて然るべきだと思うが、1.06 という数字は満足するべき数字ではないと思う。ただ、これは白石市だけの問題ではなくて固有の仕事を求めている人たちが東京へ流出していくのをどうやって防ぐかが一番肝心であって、流出を防ぐということに一番力点をおかないといけない。

・地方創生の成功事例として出てくる岡山県の西粟倉村や島根県の雲南市では移住者が増えているという事例もあり、これは移住したいという人の需要を上手く捉えていることだと思うので、そのあたりについても研究していただければと思います。
また、アンケートの結果でも住み続けたいという若い人の結果が低いとでているので、どうしたら住み続けたいと思ってもらえるのかということをもう少し調査の段階で方法を検討していくべきではないか。

たしかに先ほどアンケートをいただいたが、これを更に深く調べていくというのはこれからのことだと思うがそれを分析というか更に掘り下げていく必要があると思います。
１０人、２０人ではなく、まずは１人２人が住んで白石を良く思ってその人達が情報発信をしてくれるというのが望まれていることだと思います。

・子どもを持っている親御さんが子どもに対して、「白石のまちはいいぞ」「お父さん、お母さんの仕事はいいぞ」という話しを子ども達にする場や余裕が無いっていうのが正直な話だと思います。企業の皆さんも採用活動に取り組んでいますがなかなか求人が来

ない。でも実際大事なのは１社１人でも２人でも採用して、入社５年１０年の社員が結婚して、数値だけを言うわけではないが子どもがどれだけ産まれたか、白石で産み育てているんだというようなこともないといけないと思います。戦略会議はあくまで数値目標とか総合戦略の考え方を知って、私たちがそれぞれの場所に戻って、今まちがこういう風に進んでいるからこういう考えで行かなきゃいけないよねということをみんなで発信していかないといけないと思います。そうしないと実際アンケートにもあるように、そんな計画あったのか、というふうになってしまうと思います。このままじゃまちが消滅してしまうというマイナスイメージだけではなく、こじゅうろうキッズランドにしても、市民の声からすると正直何でお金払って施設利用しなきゃいけないの。というのが正直な意見だと思います。でもそれもみんなでそういうふうにやっていこうよという風な考え方をみんなで発信していかないと、指摘しあっても、意味が無いとは言わないけれども、意味のあるものにしていかなければならないと思います。そんなこと言わないで、みんなでやっていこうよと働きかけて進めていくのが我々の立場ではないのかなと思います。

・お父さんお母さんがこのまちに住んで楽しいよっていうことを自ら発信することを必要なんではないかと思います。やはりお父さんお母さんがここに住むことについてマイナスなことを日々言うのは子どもに影響を与えてしまうと思います。

・年間の就職件数、求人倍率はだんだん下がっています。求人倍率は１倍を超えているが、求人数・求職者数は減ってきている。求職者の方が求人よりも減っているので求人倍率としては１倍を超えているというのが実情です。

<u>○基本目標２　市民が主役になって地域をつくり、交流を楽しむまちづくりについて</u>
<u>○基本目標３　安心して子どもを産み育て、心やすらかに暮らせるまちづくりについて</u>
<u>○基本目標４　美しい自然を受け継ぎ、安全で快適に過ごせるまちづくりについて</u>

資料に基づき、事務局より各基本的方向に位置づけられている先行事業、新規事業、継続事業の各項目について説明を行った。

・先ほど冒頭で市長から、みんなで協力して白石市の活性化をという趣旨のお話がありましたので、一つ皆様にご紹介をしつつご協力をいただきたいことがございましてお時間を頂戴できればと思います。

本校では総合的な学習の時間において、白石をフィールドワークとした探求活動をスタートさせました。こちらの狙いとしましては探求ゼミ群の選択を見ていただければと思います。こちらには地方創生ツーリズムゼミから地方創生ライフゼミまで５つのゼミ群というものがあり、この中に５、６人の生徒たちのグループがいくつもあるという形になります。例えば、地方創生アグリゼミというところでは、白石の伝統産業を活かしてどんなふうに地域産業の活性化に繋げようとしているか、あるいは人口抑制に繋げようとしているかというテーマを設定して、市役所の関係する部署であったり、本日出席されている皆様のところにお伺いして、どんな課題に直面しているのか、それに対してどのように立ち向かおうとしているのかという生の声を生徒たちに聞かせてあげていただけないかというお願いでございます。それによって生徒たちは取材したデータを元に自分たちで討議をして何らかの機会に発表するという、いわゆる課題解決力というのを身につけるというのが狙いの１つです。もう一つは地域にいる人たちがどんな課題に直面してそれを乗り越えようとしているのか、そして自分たちには何ができるのか、自分自身が将来なにができるのかという社会貢献意欲というのも育てていきたいという狙いがあります。つきましては、今年の秋から生徒及び教員の方から関係部署へご連絡をさせていただきたいと思いますので、ぜひともご協力いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

・今のお話を聞いてすごく感銘いたしました。ＡＩの時代が来たら、今ある仕事の半分以上が無くなるだろうと言われています。そして新しい仕事、全く見たことも聞いたことも無い仕事を新たに作る。そういう時代を生きる若者が、地元をテーマにして新しく起業をする。東北大学の経済学部では学生なんですが、会社を立ち上げて社長になっているという人が何人かいます。そういうような形で大学や高校と連携して、地元の高校生が起業してそのアイディアに資本金などを出す施策などが出たら雇用も増えるし、若い人たちのこれからの仕事も出てくるということで、非常に面白いと思う。

・地域の進学校が逆に子どもたちを外へ流出させてしまっているということも実際に起こっていることだと思います。優秀な子ほど外に行ってしまうということが現実に起きています。その中で白石高校が地域に目を向けるということは非常に大切で、やはり地域の優秀な子たちがその地域を支える人間に育つような方向に進めていってもらえればと思います。

・今白石や仙南地域の子どもたちの学力が低いと言われていますが、大河原の小学校では思考力を育てるという教育を行っていると聞いたことがあります。３、４人のグループになって一つの物事に対して色んな視点で見ていくということをしているそうです。その結果、実力テストの成績が底上げされたという結果が出てきたというニュースを見ました。それを見て大河原にできて白石にできないはずがない、白石にできて仙南でできないはずがないということで、学力の底上げを行うことで、例えば今白石や他の仙南にいて子どもの教育が上手くできない、それなら仙台へ行ってしまおうという人口流出を防ぐことができると思う。子どもたちが学んでいくレベルが上がっていけば住んでくれると思います。人が住むことによって人口が増えていき、そうなるとそこから色んなことができるようになると思います。
→そもそも学力が下がった、いつから良くなくなったのかということですが、もともとそこまで高くなかったという認識をもっていただきたいと思う。全国学力テストの結果が公表されて、宮城県は全国平均よりも低い、その中でもはっきり公表はされていないが仙南が低いということですが、もちろん仙南全部が低いわけではない。先ほどおっしゃっていた大河原は高いレベルにありますし。白石はどちらかというとまだ公表されていませんが県内平均よりも低くなっています。近々公表になると思いますがそれに習って各学校の学力調査の結果を公表しながら、これからどうやっていったらいいのか、子どもの考える力・基本的な力をつけるために授業をどう改善するか。
もう一つ大切なのは家庭学習の充実というのがすごく大切で、その点がかなり足りないのではないかというふうに感じているところであります。

・秋田の子どもたちが実力試験でなぜ日本で一番なのか。秋田は塾に入っている子どもが最下位です。塾に入っていない秋田の子どもがなぜ学力試験をやると１２年間一番になっているのか。一番大きいのは秋田では画一的な宿題は無いということです。脳科学は嫌だなと思って勉強したことは記憶に残さないことになって

いる。だから秋田の子は自分が得意なことだけ家庭学習ノートに勉強して先生から花丸をもらう。脳というのは得意なことを褒められると不得意なことが底上げされるという般化という作用がある。なので秋田の子たちはどんどん伸びるという形になっている。そして秋田の学校ではチョークを持って先生が話すだけの授業はもうやめようという話になっている。先ほど大河原の話がありましたが、みんなで話して解決を自分たちで見つけていく。これを白石の子どもたちは教育をこんな風にやっていますよというのを見せると、子育てするなら白石市そして子育て支援施設をあるしというところで融合していくと非常に面白い話になっていくと思う。

〇その他

事務局より

・本日の検証結果につきましては、９月３日より開会される定例議会において、行政報告させていただく予定であります。また、後日市のホームページへも掲載をさせていただく予定であります。